

麻につるる



北フランスノルマンディのリネン畑 Photo by Mr. Patrick Sagnes ©2026 Alliance for European Flax-Linen & Hemp

日本麻紡績協会

ASABO/Japan Bast Fiber Association

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓬（よもぎ）」に由来しています。ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。

転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。

日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業（なりわい）としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。

目次

目次	・・・	1
日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶（日本麻紡績協会会長）	・・・	2
日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶（経済産業省製造産業局生活製品課長）	・・・	4
業界レポート 2025年～2026年リネン(亜麻)事情	・・・	7
業界レポート 2025年～2026年ラミー(苧麻)事情	・・・	8
亜麻・苧麻統計表	・・・	9
会員企業紹介及び近況報告（株式会社アマックスコーポレーション）	・・・	10
会員企業紹介及び近況報告（株式会社エヌ・ビー・アール）	・・・	11
新会員企業紹介（株式会社サイダ）	・・・	12
新会員企業紹介（総合再開発管理株式会社）	・・・	13
新会員企業紹介（株式会社装備開発機構）	・・・	14
新会員企業紹介（船山株式会社）	・・・	15
国際会議（リネン国際フォーラム）報告 Part 1	・・・	16
国際会議（リネン国際フォーラム）報告 Part 2	・・・	18
欧州麻連盟からの最新情報	・・・	19
海外情報（ミラノウニカ展示会）報告	・・・	21
世界の麻文化紹介	・・・	22
追悼 赤井彌一郎氏を偲んで	・・・	23
日本麻紡績協会の現況	・・・	24
会員企業一覧	・・・	25

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

日本麻紡績協会
会長 白岩 強

皆様、あけましておめでとうございます。新年早々でございますが大勢の会員の皆様にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。まず御礼を申し上げたいと思います。そして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、本日は経済産業省から渡邊生活製品課長の代理で篠原課長補佐様にもお越しいただいております。後ほどご挨拶も賜りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



さて、日本麻紡績協会の歴史をたどりますと、今年で74年目でございます。1952年のスタートでございますが、戦後、もう一度やり直そうということでできた協会でございます。当時は麻関係の紡績会社が何社か集まって設立されたと聞いております。

実は1952年という年は、日本にとって非常に大事な年でございます。サンフランシスコ講和条約が発効し、日本が戦後初めて独立し、主権を取り戻した年でございます。それまでの「オキュパイド・ジャパン Occupied Japan」から、晴れて「メイド・イン・ジャパン Made-in-Japan」になった年でございます。

また最近はまだあまり語られませんが、日米安全保障条約がスタートした年でもございます。そういう意味で、日本にとっても大きなスタートを切った年に、この日本麻紡績協会が生まれたということもございます。その後、紆余曲折はございましたが、今や麻紡績協会というよりも、麻に関わるさまざまな業界の団体になってきていると感じております。少し大げさに言えば、「日本麻協会」ではないかと思うほどでございます。繊維業界を見ましても、繊維連盟など運営の見直しを検討する時代になっております。そういう中で、繊維の世界も大きく変化しており、より広い友好団体として、多くの皆様にご参加いただきながら進めていくことが重要だと考えております。数は力でございます。

麻を取り巻く状況については、皆様ご承知の通りでございます。原材料である麻の原草そのものが、優れた健康素材としての位置づけやさまざまな事情から原料高となっております。そこに加えて、極端な円安でございます。ほとんどを輸入に頼る日本にとっては、大変な逆風でございます。ものづくりの現場でも人手不足、資材高騰が続き、それをなかなか価格に転嫁できない状況が続いております。

大変厳しい状況ではありますが、その中でも皆様が工夫を重ね、こだわりを持った製品づくりが進んでいる時代になってきております。私も百貨店やユニクロをはじめ、さまざまな売場を時折観察しておりますが、麻製品が減ったかという点、決してそうではありません。むしろ

ろ麻の入った製品は増えているというのが、私の実感でございます。環境に良いという認識もかなり浸透してきており、店頭でもサステナブルを前面に出した商品展開や見せ方が進んでいると感じております。日本の気候も、春夏秋冬ではなく「夏・夏・夏・冬」と言われるようになりました。春がなく、秋が短い。そういう意味では、麻の出番、麻の需要は今後ますます増えていくと、長期的には間違いなくそうなると確信いたしております。

昨年11月、スペインのマラガで欧州麻連盟の国際フォーラムが5年ぶりに開催されました。私も以前から申し上げてきましたが、麻も品種改良を本格的に進めるべきだという議論が、今回かなり踏み込んで行われておりました。日本のお米を見ていただければ分かる通り、品種改良は飛躍的に進んでおります。台風に強い、茎が短く倒れにくい、多収量の品種などが開発されております。麻についても、暑さ・寒さ・乾燥に強い品種があっても不思議ではありません。今回のフォーラムでは、そうした内容について詳細な発表があり、ここにご参加の皆様の中にも現地に行かれた方が多くいらっしゃいます。また、これまで春に播いて夏に刈り取る一期作型だけでなく、輪作を前提とした作付場所は変わりますが二期作的な栽培への挑戦もかなり進んでいるとのことでございます。

日本では麻は高級素材というイメージが非常に強いですが、ヨーロッパではごく普通の生活素材として存在しております。そういう意味では、日本も大量供給や価格戦略、マーケット戦略を含めた新しい段階に入っていかなければならないと感じております。インフルエンサーの世界を見ましても、麻やリネンについて、理念や知識を持って発信する方が増えてきました。社会全体がそこまで来たのだと感じております。販売の仕方、マーケットの作り方についても、新しいチャレンジの時代に入ったと考えております。

ここまでの、専務理事から「話してほしい」と言われた内容でございますが、最後に一点申し上げます。今回のスペインの麻フォーラムにおいて、長年にわたり国際的に麻の普及に尽力された功績として、専務理事が表彰を受けられました。後ほどご紹介があるかと思いますが、協会としても大変誇らしいことでございます。最後に私事でございますが、帝国繊維は戦前から麻事業を行ってまいりました。北海道各地で栽培された麻の茎を処理し、札幌の紡績工場へ送る前工程の工場が、帯広の音更町にございました。この工場は昭和39年の東京オリンピック前まで稼働しておりましたが、その後廃止され、長年廃墟となっております。結果として白樺が生えるほど、原生林に近い状態になっておりましたが数年前から音更町と共同で再開発を進め、来年には新しい工場団地としてスタートする予定です。町長さんは農家のご出身で、「音更の農業が発展したのは麻のおかげだ」と言っておられます。

リネンは6年～7年に一度しか同じ畑で作れず、6～7年間は他作物を植える必要がありました。その結果、豆類、ビート、トウモロコシなどの栽培が発展し、現在の十勝農業の基盤が築かれたというお話です。麻事業が、結果として北海道農業全体の発展に貢献してきたと聞き、私自身、改めて誇りに思った次第でございます。皆様のお仕事も同じでございます。麻事業を通じて、これからも確実に社会貢献ができると確信しております。ぜひ自信を持って進んでいただきたいと思っております。

最後に、皆様のご健勝と、各社のますますのご発展を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

経済産業省製造産業局生活製品課長
渡邊 宏和 様（篠原 諒太様）

令和八年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶び申し上げます。

世界では、米国の関税措置や、米中欧をはじめ各国による自国優先の大規模な産業政策の展開など、自由主義経済に代わる新たな国際秩序が生まれようとしています。国内に目を向けると、昨年は、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となり、名目GDPも初めて600兆円の大台を超えるなど、日本経済に明るい兆しが現れています。また、繊維産業においても、輸出が増加傾向にあること、昨年を上回る賃上げ率となったこと、そして我が国から世界初となる技術開発への試みが開始されるなど、様々な変化がみられました。

また、「大阪・関西万博」は、大変な盛況を博しました。中でも、パビリオン展示やスタッフユニフォーム等について、繊維業界から多大なるご協力をいただき、我が国が誇る繊維企業の優れた技術を活かした様々な製品が世界に向けて発信された素晴らしい機会となりました。この機会を契機として、注目を集めた我が国の繊維企業や製品がインバウンド需要を含む外需をより獲得していくべく、事業環境の整備を進めていくことが必要になると認識しています。

繊維産業は、衣食住（ライフスタイル）を担う根幹の産業です。我が国の繊維産業は、これまで厳しい国際競争で培われてきた卓越した技術力、繊細な表現力により、私達の日々の暮らしの質をより良くし、生活文化の発展にさせることができる産業です。繊維産業の宝である職人の洗練された技術、芸術性、創造性は、世界からも高く評価され、革新的な製品を生み出す力として期待されています。

今年は、繊維・アパレル業界にとって、新たな挑戦の年になると考えています。我が国の繊維産業が創造する素晴らしい価値を更に高め、次世代に引き継いでいくためには、輸出拡大も含めた成長戦略、産業の国際競争力強化の重要性がますます高まっています。業界が一丸となって解決すべき課題に果敢に立ち向かえるように、経済産業省としても、今後、5つの繊維産業政策を産学官の力を結集して推進してまいります。

第一に、価格転嫁・取引適正化の徹底に向けた更なる後押しです。我が国の繊維産業の持続的な成長や労働環境整備のためには、適正な取引、適正な利潤の確保は不可欠です。しかしながら、エネルギーや原材料価格の高騰等により製造コストは上昇しているにも関わらず、価格転嫁が十分に進んでいない繊維企業が存在し、一部では歩引きが残っている実態があります。適正な取引、適正な利潤の確保ができれば、更なる賃上げの原資となり、人手確保の切り札にもなります。そうした中、昨年度の通常国会で改正した「中小受託取引適正化法（取適法）」・「受託中小企業振興法（振興法）」が本年1月1日に施行されました。今回の改正により、適用対象となる取引や事業者の範囲が拡大され、中小受託取引の公正化と受託側の中小企業の利



渡邊課長



篠原課長補佐

益保護が強化されます。これらを踏まえ、改訂が予定される「繊維産業の適正取引の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画」、「繊維業界における適正取引に向けた自主行動計画の徹底プラン」、「パートナーシップ構築宣言」等の実施徹底について業界と連携してまいります。

第二に、繊維産地におけるサプライチェーンの強靱化です。国内繊維産業のサプライチェーンは、従業員の高齢化・人手不足、取引先等の生産拠点が海外移転することの影響等により、毀損リスクが顕在化しています。こうした状況を踏まえ、経済産業省では、令和6年10月より「繊維産地におけるサプライチェーン強靱化に向けた対応検討会」を設置し、事業継続や価値向上、多様な主体の連携を図るべく議論を進め、令和7年11月に報告書を公表しました。報告書では、産地が抱える課題と目指すべき発展の方向性を整理するとともに、国、産地企業、組合、自治体、金融機関等の役割も明確化しています。また、近年見受けられる新しい取組として、オープンファクトリー等を通じた関係人口の創出、国際認証の取得、デジタル化の推進、ブランディング強化に向けた共同投資なども取り上げています。今後は、こうした各主体による連携した取組を後押しし、国内の繊維産業における持続可能なサプライチェーンの実現を目指してまいります。

第三に、外需の獲得です。持続可能なサプライチェーンの実現のため、インバウンド需要を含む外需を獲得していくことは、我が国の繊維産業にとって極めて重要な要素です。一方、現状では一部の事業者が個別の手法で海外に輸出している状況であります。そのため、令和7年10月に「繊維産地から目指す次世代繊維企業の外需獲得に向けた研究会」を立ち上げ、日本の繊維産業の国際競争力、各産地や工程ごとの強みとなり得る分野について、海外展開に取り組んでいる企業や産地の中核企業、商社等と共に議論をしております。繊維産業の皆様とも議論をし、繊維産地が取り組むべき方向性や政府等の役割を改めて明らかにし、国内の繊維産業における外需の獲得を後押しできるよう、検討を続けてまいります。

第四に、繊維産業における人材不足の解消です。繊維産業においては、令和6年9月より追加要件を課した上で、一定の専門性・技能を有し即戦力となる特定技能1号外国人の受入れが可能となっております。経済産業省では、繊維産業に課された特定技能制度における追加要件のうち「国際的な人権基準に適合して事業を行うこと」への対応として、令和7年3月に、日本の繊維産業の監査要求事項・評価基準である「JASTI (Japanese Audit Standard for Textile Industry)」を策定し、同年4月から第三者監査制度として運用を開始しました。特定技能1号外国人の受入れが進んでいることを踏まえ、熟練した技能を要する業務に従事する外国人材の今後の受入れの在り方について、検討してまいります。また、令和9年度から技能実習制度に代わって人手不足分野における人材の育成・確保を目的とする育成就労制度においても、特定技能制度で課されている追加要件が課される見込みとなっており、育成就労制度へ円滑に移行できるよう、業界の皆様と連携しつつ、準備を進めてまいります。さらに、人手不足に悩む中小企業等の売上拡大や生産性向上を後押しするため、中小企業省力化投資補助金やものづくり補助金による生産設備の自動化等の支援策を用意しています。こうした取組を通じて、繊維産業における人材不足の解消と持続可能な成長を目指してまいります。

最後に、サステナビリティへの対応です。サステナビリティの取組は企業の競争力強化の観点からも重要な課題です。すでに欧州等の一部のアパレル企業においては、自社の人権や環境

に配慮した取組を証明するため、第三者の認証機関が担保する国際認証の取得が進んでおり、今後、国際社会においてサステナビリティ確保に向けた法整備や対応等が進展する中、我が国の繊維企業がグローバルに産業競争力を維持・強化していくためには、企業による環境配慮や人権尊重に向けた取組が不可欠です。経済産業省では、2024年に策定された「繊維製品における資源循環ロードマップ」に基づき、官民の連携を通じて様々な取組を推進しております。例えば、衣料品のリサイクルについては、国内繊維メーカーを中心とした連携による複合品の分離・リサイクル技術の研究開発・実証事業が、「バイオものづくり革命推進事業」に採択され、昨年10月には繊維の資源循環の実現に向けたコンソーシアムも設立されました。また、環境配慮設計の推進については、一昨年策定した「繊維製品の環境配慮設計ガイドライン」の普及及びJIS、ISO化に向けた取組等による供給面の整備や、公共調達による需要創出を図る観点からの、グリーン購入法の基準の見直しの検討を進めてまいります。さらに、情報開示の推進については、一昨年策定した「繊維・アパレル産業における環境配慮情報開示ガイドライン」の普及を引き続き実施しております。併せて、欧州で検討が進むデジタルプロダクトパスポート制度も参考にしつつ、環境配慮設計や情報開示等を促進する観点から、情報流通プラットフォームの構築にも取り組んでいるところです。

今年の干支は「午」となります。力強く駆け抜ける馬のように、我が国の繊維産業もスピード感を持って変革を進め、世界に向けて新たな価値を届けていけるよう、経済産業省としても、繊維産業の皆様と密に意見交換を図りながら、様々な施策を総動員し、創意工夫をもって前向きかつ意欲的に取り組む事業者の皆様方を応援してまいりますので、皆様の一層の御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、日本麻紡績協会様を始め、我が国の繊維産業が大きな変革の時代を乗り越え、飛躍する一年になることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



業界レポート 2025年～2026年リネン(亜麻)事情

【ヨーロッパにおけるフラックス（ライン）生産状況推移】

(by 欧州麻連盟)

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年予測
作付面積(ヘクタール)	145,000	150,000	186,000	200,000	220,000
生産数量(トン)	152,000	140,000	116,000	190,000	後報
原料価格(ユーロ/kg)	4.05	6.45	7.93	5.5～6.0	同上

* 上記生産数量とは、原草(フラックス原料)を製線(スカッチング)加工したもの(フラックスライン)を指し、原草収穫量とは異なります。

* 2025年は作付け面積の拡大に加え(内 winter linen は3万ヘクタール)天候にも恵まれたので、フラックス原料の収穫は昨年並みとなりました。その結果、一昨年まで続いた原料価格の高騰や原料不足は緩和されました。したがって、2026年のフラックスライン価格の値下がり期待されます。しかしながら、欧州製線工場の生産能力がネックとなり、市場向けフラックス原料の大量放出は難しくなり、価格の乱高下が予想されます。

【2025年 中国リネン事情】

* 2025年欧州からフラックス原料輸入数量及び輸入単価：

数量：1亜 17.59万トン、2024年に対し 88.1%増

2亜 8.61万トン、2024年に対し 12.9%減

単価：1亜 月平均高値：6.80\$/kg(2025年12月) 安値：3.88\$/kg(2025年3月)

2亜 月平均高値：3.58\$/kg(2025年01月) 安値：2.04\$/kg(2025年3月)

(中国リネン糸の輸出量)

2025年 1.98万トン 対前年 23.7%増

(中国リネン100%織物の輸出量)

2025年 15,770.53万メートル 対前年 5.1%増

* 情報：2026年1月 中国麻紡績行業協会 第9代会長に馬 志輝 新会長が選出されました。

欧州のフラックス価格は、地政学的に不安定な情勢もあり、インフラの経費、輸出入コスト増等により、一昨年の高騰から値下げ方向への期待は難しいようです。

各国のリネンに対する需要は高まっており、インドのリネン紡績業は堅調に推移し、原料の需要や消費動向も旺盛です。一方、バングラデッシュ、エジプト、特に中国(従来の60万錠から80万錠へ拡大)、ベトナム(新規潤紡績工場設立計画が数件)などは新規設備投資や生産移転計画などありますが、現状各社は、価格上昇を懸念して買い付けは慎重になっています。

* 上記資料提供：欧州麻連盟及び中国麻紡績行業協会

業界レポート 2025 年～2026 年ラミー(苧麻)事情

2025 年度ラミー原料に関する状況は以下の通りです。

1. 2025 年度ラミーの栽培状況について

前年に引き続き、2025 年の栽培状況について現地に調査、報告を依頼したものの、公式な記録がなく、正確な数字を把握することができなかつたため、以下栽培面積、生産量、原草価格等は、複数社の情報を収集し、長年中国の原料を取扱っている原料商と駐在員にまとめてもらったものです。

2. ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

2025 年度は強風、洪水など様々の災害が発生し、原草の収穫量に多少影響が出ています。但し、栽培面積は 20 万畝（約 13,333 ヘクタール）と予想され、昨年より倍となっており、2025 年度原草の収穫量は約 20,000 トン（2024 年は約 10,000 トン）に達する可能性があります。推測される数値であるため、実際の収穫量はこれを下回る可能性があります。中国国内需要も伸びており、供給量が増えても現状の高値傾向は続く予想です。主要産地は大竹・四川省・湖南省・湖北省・重慶市・江西省と昔からの栽培地域が中心で、特に四川省大竹地域に集中しており全体の約 40%を占めています。

3. ラミー価格について

原草価格については、2020 年以降の高止まり状態が 2024 年まで継続しており、2025 年は下記のように更に値上りしています。

手剥ぎのラミーは 35,000 元/トン（昨年 30,000 元/トン）、機械剥ぎのラミーは 28,000～29,000 元/トン（昨年 23,000～24,000 元/トン）。

4. 2026 年の見通しについて

2025 年は栽培面積が倍増したことで、今後は価格の値下がりも期待できそうですが、栽培農家の高齢化、生産工場の減少、品質の維持など問題も多く、価格への影響が懸念されます。ラミー原料については、自然災害が発生しないことが望まれますが、地方政府や生産企業、栽培農家が一体となって、市場への安定供給を果たしていく事が重要であると思われます。

亜麻・苧麻統計表

品目 1-12月	輸 入 糸					
	亜麻糸		苧麻糸		計	
	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)
平成28年	1,178	1,410,512	215	278,070	1,393	1,688,582
平成29年	1,294	1,490,800	220	299,854	1,514	1,790,654
平成30年	1,382	1,737,013	225	360,732	1,607	2,097,745
令和元年	1,315	1,751,145	163	272,176	1,478	2,023,321
令和2年	652	809,137	78	151,478	730	960,615
令和3年	819	1,091,591	74	152,199	893	1,243,790
令和4年	903	1,649,397	108	298,616	1,011	1,948,013
令和5年	850	2,059,580	89	261,378	939	2,320,958
令和6年	623	1,923,955	61	184,341	684	2,108,296
令和7年	728	1,812,878	72	219,601	800	2,032,479

(注) 財務省日本貿易統計による。

品目 1-12月	輸 入 織 物						輸入ハンカチ	
	亜麻織物		苧麻織物		計		亜麻・苧麻ハンカチ	
	数量(千㎡)	金額(千円)	数量(千㎡)	金額(千円)	数量(千㎡)	金額(千円)	数量(千枚)	金額(千円)
平成28年	7,642	3,037,204	641	219,255	8,283	3,256,459	83	32,654
平成29年	7,624	3,019,338	605	212,452	8,229	3,231,790	86	36,624
平成30年	7,609	3,289,511	674	269,854	8,283	3,559,365	61	29,381
令和元年	7,683	3,248,368	426	184,789	8,109	3,433,157	57	26,299
令和2年	6,347	2,345,238	383	175,882	6,730	2,521,120	75	23,444
令和3年	5,944	2,238,410	286	134,794	6,230	2,373,204	56	19,704
令和4年	5,039	2,655,833	178	108,398	5,218	2,764,231	99	26,249
令和5年	4,309	2,562,787	223	148,930	4,532	2,711,717	45	25,436
令和6年	3,453	2,436,069	396	221,899	3,849	2,657,968	39	23,688
令和7年	3,841	2,476,855	236	181,896	4,077	2,658,751	31	19,290

(注) 財務省日本貿易統計による。

会員企業紹介及び近況報告

株式会社アマックスコーポレーション

代表取締役 増島 勇次



「結びつきを大切に」

外部環境は刻々と変化し、世代の変化とともに社会の考え方も変わってきます。さらに国際ルールは複雑となり、企業が存続していくためには、変化の対応が求められます。それでも質の良い製品をご提供し続けることにより、現場の安全・安心につながるのならば、その価値観は変えずに、お客様のため、働く仲間のためにモノづくりをすることこそ、社会への貢献につながると信じています。あらゆる産業のニーズにお応えすべく、人と人、人と物、物と物の結びつきを大切に、縁の下の力持ちとして製品を通じ社会に貢献する会社を目指します。

当社は2006年6月に12年勤務した先代の会社から独立する形で設立致しました。海外（主にイタリア）の紡績メーカーのプロモーションオフィスとして年2回イタリア・フィレンツェで開催されるPITTI FILATIに出展する紡績メーカー数社のコレクションを日本マーケットに紹介、ファッションに代表される欧州文化の伝統と格式、イタリアの創造性をニット市場に広めて丁度20年が経ちました。そのうちの社である創業150年の伝統を誇るLINIFICIO E CANAPIFICIO NAZIONALE(LCN)社のエージェントになった事がご縁となり日本麻紡績協会に入会致しました。LCN社の定番素材BRILLANTE, NEW OPALEはSOLID, MELANGE COLORのストックサービス品番として長くセレクトショップ等オリジナルブランドの麻100%ニットに愛用されております。地球温暖化で長くなった酷暑の夏季には麻は必需品であり、よりシーズン長く麻絡みの素材は使用されて然るべしと考えます。

当社はあくまでも仲介貿易業者として少数精鋭ながら、各メーカーの素材情報を迅速かつ的確に顧客に提供し、顧客のニット製品企画に向けて最適な原料がスムーズに供給出来る様に日々努めております。麻関係を含め輸入系ビジネスにおいては昨今の円安、原料高には非常に頭を痛めておりますが、均一化するファッションアイテムの中で何とか差別化を図るべく地道な提案活動を続けて参ります。



AMAX 大阪本社



AMAX 東京事務所

【会社概要】

商号 株式会社アマックスコーポレーション

<https://amaxcorp.co.jp/>

設立 2006年6月

資本金 300万円

所在地 大阪本社 大阪府大阪市中央区南船場4-7-6

TEL 06-6241-7156

東京事務所 東京都千代田区平河町2-13-1

TEL 03-3511-3840

【事業内容】

欧州、ペルー、中国の紡績糸メーカーのセールスエージェント



会員企業紹介及び近況報告

株式会社エヌ・ビー・アール
代表取締役 古澤 省吾

以前に勤務していた旧ソ連専門の商社の仕事を引き継ぎ、1998年の世界通貨危機時に当社を設立しました。製紙用の亜麻の短繊維原料を求めて東欧のロシア、ウクライナ、リトアニア、ベラルーシの工場や農場を訪問する毎に亜麻という植物に魅了されました。往時にはロシア・東欧の繊維用亜麻の生産は百万トン程もあったようですが、ポリエステルなどの化学繊維の台頭と普及により駆逐され、現在は数万トン程度となり、その織物工場はベラルーシに集中されました(西ヨーロッパでは紡績原料で十数万トンあります)。当社はその工場から日本向けにリネン製品を25年前から輸入してB to B、B to C、OEM 向けに販売しております。

欧州で亜麻の短繊維原料が不足したのを契機に、中国の甘粛省の種子用(亜麻仁)の茎の繊維を紙パルプ用に転用したこともありました。繊維用も種子用も同じ亜麻の種類ですが、その目的によって育てられ方も生産地も違います。地球全体では亜麻仁用の作付面積が多く、リネンの繊維用亜麻の20倍程度もあります。繊維用亜麻(リネン)の延長線上で偶然に出会った亜麻仁(種)は、必須脂肪酸オメガ3も含めて健康(特に生活習慣病)に良いスーパーフードとして人気が高まっていたことから、原料をシベリアから輸入して佐賀県の田舎で手仕事での搾り立ての未精製の亜麻仁油の製造・販売することにしました。種子用の亜麻もその茎の繊維はリネンであること他ならないので、国内の会社の協力で亜麻の紙糸から試験的に布帛に仕上げてもらったところです。

亜麻という植物は乾燥した寒冷地に育ち、農薬も要らない地球環境にも優しい、繊維も種子も人間の健康に役立つ植物です。亜麻を知ったら誰でもファンになるようです。年毎に原料の値上がり悩みですが、もっと実需が増えて生産量が増えれば価格が下がり、プラスチックフリーで自然環境も良くなると期待するものです。

【会社概要】

商号：株式会社エヌ・ビー・アール
資本金：1,000万円
代表者：代表取締役 古澤 省吾
所在地：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台
4丁目4番地
連絡先：TEL03-3526-6272・FAX03-3526-6273



亜麻仁のリグナン入りの「あまに油」

【事業内容】

リネン事業部：商標 リネンのお店“Cadeau 屋”
(かどや)、LINEN&BASIC ベラルーシ産の220cm
広幅等のリネン反物や国内加工の寝具・生活雑貨・
紙糸
亜麻仁工場：佐賀県太良町の工場で見学も受付けて
います。搾り立てのあまに油は美味しいです。



筆者：古澤 (ニコライ堂前の事務所屋上にて)

新 会 員 企 業 紹 介

株式会社サイダ

代表取締役社長 齋田 義孝



1. 会社紹介

当社は1977年創業で繊維製品縫製加工、販売を業務とし、防衛省を中心とした官公需のユニフォーム生産に永年携わってきました。麻製品においては、防衛省作業外被の試作生産当初から関わり、今日の新型まで生産を積み重ねてきております。

また、近年は雨具、防寒衣類の縫製加工を主生産品目としており、コーティング素材の加工、テーピング加工を必要とする製品加工の技術研鑽に力を注いでおります。

2. 会社概要

商号 株式会社サイダ

創業 1977年4月

代表者 代表取締役社長 齋田 義孝

資本金 1800万円

所在地 小樽市奥沢1丁目25番23号

TEL 0134-33-7711

E mail saida-otaru@bz01.plala.or.jp (6月30日まで)
saida-otaru@axel.ocn.ne.jp (7月1日から)

3. 取扱商品

防寒衣、雨衣、各種作業衣、制服、事務服、白衣、制帽、作業帽、各種テント、シート、各種スポーツウェア、各種防災用品、各種消防用品、各種手袋



新 会 員 企 業 紹 介

総合再開発管理株式会社

ヒデコ&ヨーゴホーム事業部 代表取締役 高山佳代子

弊社は平成2（1990）年に、都市計画に関するコンサルタント業務の会社として立ち上げ、その後、編集企画など業務を拡大し、10年前よりアパレル事業を加え今日に至ります。社名が少々厳ついのはこの経緯からです。

ブランドを立ち上げるきっかけは、宮城県に住んでいた亡き母が病気で入退院を繰り返したことです。母は若い頃、洋裁で家計を助けており、仕立てが素晴らしいと評判でした。その母が癌になり、病院でもおしゃれができるようにとパジャマを作りました。アームホールにゆとりがあり動きが楽なデザインの型紙を母が作ってくれました。すべての縫い合わせを「折り伏せ縫い」にし、「麻 100%」で吸水性・速乾性があり通気性に富み、かつ肌触りが良く、毎日着て頻繁に洗濯できる生地を選びました。サンプルを着て、母は大変喜んでくれ、その後まもなく父のいる世界へ旅立ちました。



パイピングがアクセント。夏向きには涼し気な 80 番手、秋冬にはぬくもりを感じる 40 番手を選んでいる

ブランド名は質の良いものが好きだった母の名前と父の名前（ヨーゴ：要吾）からもらいました。試行錯誤しながら、現在はネット販売（BASE）を中心に百貨店でのポップアップを展開しております。今後は越境 EC を視野に入れつつ、販路拡大を模索中です。さらなるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【会社概要】

会社名：総合再開発管理株式会社 ヒデコ&ヨーゴホーム事業部

アパレル事業部設立：2016 年

資本金：1000 万円

事業部事業内容：アパレルの製造・販売

所在地：千葉県松戸市上本郷 283-1-604

同事業部所属 加藤 亜希子（日本女子大学大学院 文学研究科歴史文化学専攻）

ヒデコ&ヨーゴホーム事業部に所属の大学院生（フリーランスと兼業）です。文化服装学院でテキスタイルデザインを学び、2年ほど綿・麻の先染め服地をデザインしました。その後大学進学で業界を離れ、4半世紀を過ぎました。

歴史学の視点から近代日本における繊維産業を研究しており、亜麻を中心とした麻類が対象です。研究を通し貴団体に寄与したいと考えております。

よろしくお願いいたします。



新 会 員 企 業 紹 介

株式会社装備開発機構 代表取締役 内山 徹

弊社は、防衛省・警察庁・海上保安庁などの官公庁や警備会社を主要な取引先とする専門商社です。平成 25 年の設立以来、隊員や職員の方々が着用する防護品や制服など、人命や安全に直結するような専門性の高い商品の供給を担っています。



【麻への関わり】

制服や作業服など、麻を活用した商品を官公庁向けに展開しております。優れた通気性と耐久性を備えた天然素材である麻を使用した被服は、快適さと機能性の高さの両立を求める現場のお客様に、高い評価をいただいております。

今後も、お客様の多様なニーズにお応えするために、麻素材を活用した新たな商品提案を積極的に進め、より一層の価値提供に努めてまいります。

【事業内容】

1. 国の防衛装備品・治安警備対策用品の開発販売
2. レスキュー用品・救命器具・暴徒鎮圧用品の開発販売
3. 警備・防衛専用品の輸入販売
4. 消防庁等で使用する、特殊装備の開発販売
5. 各装備品の調査・分析・評価・コンサルティング業務

【会社概要】

設立：平成 25 年 4 月 1 日

商号：株式会社装備開発機構

所在地：東京都千代田区飯田橋 4 丁目 2 番 1 号
岩見ビル 3 階

TEL：03-6261-5891

FAX：03-6261-5892



新 会 員 企 業 紹 介

船山株式会社

代表取締役 秋山政信

【代表者挨拶】

弊社は帝国製麻に勤務していた創業者、船山富作が1948年に創業し、現在の船山株式会社は1956年に設立され今年で70年を迎えます。当初は綿布、重布、麻、芯地など多種多様の繊維素材を取り扱っておりました。やがてそれを活かし次のステップとして縫製業へと事業転換を進め、製品として大手アパレルや、大手量販店に納入してまいりました。更に時代の移り変わりと共に取扱い製品も縫製業としてのノウハウを活かし、現在では主力商品は消防の防火服、活動服、制服等の企画、製造、販売をしています。



【企業理念】

ありがとうございます、いわれるように いうように、心は高く身は低く、いつも笑顔で誠心こめて。

【会社概要】

代表者：代表取締役 秋山政信

主な会社所在地

東京本店：東京都中央区月島 2-20-15

TEL:03-3532-3601

FAX:03-3532-1119

長岡本社：新潟県長岡市稲保 4-713-2

TEL : 0258-25-2780

FAX : 0258-25-2805

URL : www.funayama.co.jpe-mail : info@funayama.co.jp

従業員数：123名

年間売上：105億（2025年9月期）



【主な事業】

- ①消防関連の装備品全般
- ②災害救助用資機材、物資
- ③防災備蓄品

国際会議（リネン国際フォーラム）報告 Part 1

帝国繊維株式会社 吉永中楽

日本麻紡績協会 専務理事 香山 学

1. 会場・会期 ・スペイン・マルベリャ（マラガ県） ・2025年11月12日～14日

2. 内容・目的

欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp、旧 CELC）主催によるリネン国際フォーラムが5年ぶりに開催された。本フォーラムでは、同連盟が近年注力しているゲノム解析による品質改良および生産拡大に関する経過報告がなされた。併せて、原料の作付け・収穫状況、国際需給関係等の最新情報を収集し、日本麻紡績協会会員各社の活動および国内外ビジネス拡大に向けた支援へと繋げることを目的とした。

3. 参加者

16カ国より150社・330名が参加。日本麻紡績協会からは9社13名が参加。（アンツジャパン、ケンランド、滋賀麻工業、大長、帝国繊維、トスコ、西山繊維、麻絲商会、ミマス）

4. 会議内容

(1) 欧州フラックス生産現状 欧州麻連盟 経済部長 Damien DURAND による報告

- ・ デジタル・トレーサビリティ認証の重要性を強調
- ・ 原料産地から最終製品までの一体化・可視化を提唱
- ・ AI活用により実現可能性が向上

ウィンターリネンの確立

- ・ 低温耐性品種（10～11月播種、5月収穫）
- ・ 春播きリネン（2～3月播種、7月収穫）と同等価格で販売可能
- ・ 栽培面積は5年間で約10倍に拡大
- ・ 天候・労働リスク分散に寄与

栽培面積の増加

- ・ 欧州（仏・ベルギー・オランダ）：前年比7.7%増
- ・ 世界全体：5.3%増（30.9万ha → 32.6万ha）

Long Fibre 生産量（2024年）

EU:116,000 t エジプト:14,000 t 中国:7,500 t ベラルーシ:6,500 t ロシア:2,000 t

最近の動向

1) 中国資本によるエジプト新規投資 2) カザフスタン・モロッコ等の新規参入予定

(2) ヘンプ（大麻）動向

需要増に伴い栽培地域が拡大（ポルトガル、エジプト、モロッコ、英国等）

(3) インドリネン業界

毎年約12%の成長を維持し、堅調に拡大

(4) ゲノム分析による農学 R&D 講演者：Pascal PREVOST（欧州麻連盟副会長）

テーマ：「気候変動下における繊維用 FLAX の増産と品質向上」

概要 1) 遺伝子型決定（ゲノム解析）2) 生態生理学（生産性・成長要因、作物モデル）
3) 表現型解析（センサー・AIによる計測）4) 既存手段の活用（Winter Flax の拡大）

(5) 国連 貿易開発会議（UNCTAD）Marco FUGAZZA 部長による講演

テーマ：米国関税政策の影響（中国35%、インド32%、EU10%等）

- 関税上昇により以下の影響：
 - ・ 輸出業者→利益率低下、品質低下
 - ・ 消費者→代替消費への移行
- 今後の見通し：一部国で輸出シェア増加の可能性、しかし総輸出は減少傾向
 ※RPM（相対的特恵マージン）の重要性を指摘

(6) 中国麻紡織行業協会 董 春興 会長による報告

- デジタルトレーサビリティ導入に対し懸念表明
- 原料品質基準の未整備を問題視
- 亜麻の国際市場の健全発展に向け、価格と品質の安定を希望
- 欧州主導の認証制度は中国に不利との見解
 また、企業情報・価格データが欧州側に集中する点について正式に問題提起がなされた。

(7) パネルディスカッション

テーマ：Common challenges and collective solution（共通課題と集団的解決策）

報告者：香山 学「日本市場の展望について」

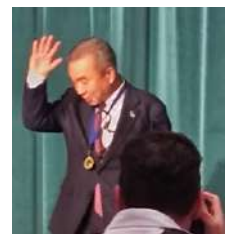
- 欧州サイドから日本市場への関心は依然高い。
- 公開討論の形式となり、PPT「Prospect of Bast Fibre in Japan」資料(20頁)を準備したが使用せず。日本の繊維産業の基本指標を脳裏に刻み込み、口頭で説明。
- 説明内容：日本市場での麻の現況、ASABOのSWOT分析による強み（CSV、Creating Shared Value）、戦略的麻のグローバル展開等は時間制限で半分程度のみ説明。

5. 所感

欧州麻連盟は「Masters of FLAX FIBRE™」認証を強力に推進し、AIを活用した認証システム構築を急いでいる。ZARA、ユニクロ、H&M等の大手ブランドもこれに追随し、リネンの国際認証の必要性が高まっている。登録費用は年間約2,500ユーロと推定され、今後各社への登録勧告が進む見込みである。原料面では、エジプトおよび東欧の生産量が増加（約1万トン→2万トン以上）し、中国・インド向け輸出が増加。欧州フラックスとの混綿に対する対抗策と考えられる。価格は引き続き上昇傾向にあるが、比較的安定した緩やかな上昇が予測される。2025年収穫は良好で、新麻は12月より出荷予定。

また、40歳以下の若手を対象とした「Under40 Group」が発足し、将来に向けた人材育成の取り組みとして高く評価される。

最後に、今回グローバルな麻の普及に貢献した3名に顕彰メダルが授与された。筆者香山も受賞したが、個人ではなく日本麻紡績協会が受賞したと理解している。



国際会議（リネン国際フォーラム）報告 Part 2

帝国繊維株式会社 陸 イキ

LYL（Linen Young Leaders）活動報告（概要）



- 参加概要：**2025年11月、スペイン・マラガで開催された World Linen & Hemp Forum に参加した。本フォーラムでは、若手世代の国際ネットワーク形成を目的とした新プログラム LYL（Linen Young Leaders）が初めて設けられた。対象は主に40歳以下の業界関係者であり、日本からは福坂淳史・福坂有莉・筆者 陸イキの3名が参加した。
- LYL 設立の目的：**欧州麻連盟が主導し、リネン産業の将来発展を見据え、若手視点を取り入れた国際連携の強化を図るものである。主な目的は、サプライチェーン全体（原料・紡績・製織・加工・流通）の関係者による交流促進、若手視点での市場課題や将来展望の共有、上下流間のコミュニケーション強化、業界全体の情報共有と国際ネットワーク構築にある。
- 主な活動方針：**LYLでは、原料生産からスカッチング、紡績、製織、染色加工、アパレル、流通まで、各工程の若手が横断的に交流することを重視している。また、国際展示会やフォーラムを活用し、対面交流を継続する方針が示された。具体的には、Premiere Vision（パリ）、Intertextile Shanghai（上海）、Bharat Tex（インド）などを交流の場とし、市場動向や業界課題を議論し、相互理解を深め、サプライチェーン全体の情報共有を促進していくことが期待されている。
- Alliance への期待事項：**LYL メンバーから欧州麻連盟に対しては、若手ネットワークを継続的に機能させる仕組みづくりが求められている。具体的には、毎年 Week40 頃に対面ミーティングを開催し交流機会を確保すること、さらに国際展示会において LYL または Alliance として共同ブースを設置し、若手の活動を発信・可視化することが提案された。
- 今後6か月の優先課題：**今後の取り組みとして、LYL 活動を推進するボードを設立し、議題設定や活動計画の整理を進める予定である。また、2030年および2035年を見据えた中長期ビジョンを検討するとともに、WhatsApp 等を活用した情報共有体制を整備し、コミュニケーション強化を図る。さらに、サプライチェーン理解を深めるため、各工程の工場訪問など現場に根ざした交流も検討されている。
- 所感：**今回の LYL 活動を通じ、欧州を中心

84名のLYLメンバー

としたリネン産業の構造や将来戦略への理解が深まるとともに、各国の若手関係者との人的ネットワークを構築できた。今後は、このネットワークを活用し、業界動向の情報収集と将来的なビジネス連携の可能性を探っていきたい。



欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp）からの最新情報



Press release Q1
- 30 January 2026

【FLAX-LINEN & HEMP ECONOMIC OBSERVATORY(日本語訳)】

**Masters of Flax Fibre™ long fibres in 2026:
Increase in growing area & continued dynamic supply**

**2026年の「Masters of Flax Fibre™」長繊維：
栽培面積の拡大と、引き続き活発な供給**

**Masters of FLAX FIBRE™ long fibre production
remains high**

As noted in the 19 December 2025 communication from the Alliance's Flax-Linen and Hemp Economic Observatory, scutching mills in France, Belgium and the Netherlands are maintaining high production levels. This is explained by high yields in 2024 and 2025, which are now being processed by scutching lines, and recent industrial investments in Western Europe – 19 new scutching lines within a decade and numerous replacements of older lines – with the aim of developing capacity and market responsiveness.

From September to December 2025, long fibre production was estimated at 70,000 tonnes, versus 50,000 tonnes during the same period in 2024, when scutching relied in part on the mediocre 2023 harvest. Over the course of the year, 2025 (with a production level of 190,000 tonnes) is both a record and a significant rebound from 2024 (116,000 tonnes).

The outlook announced in our previous communication for the first half of 2026 remains unchanged: monthly production will be high, approaching, if not quite reaching, the 20,000-tonne mark between January and March 2026. From April to June 2026, the high pace should continue, with Western European scutching mills producing 17,000 to 19,000 tonnes per month.

**The price of Masters of FLAX FIBRE™ long fibre:
an upward trend**

After a rapid decrease in late 2024, bringing the average price per kilogram down from €9.00 in March 2024 to €3.33 in January 2025, the average price of Masters of FLAX FIBRE™ has risen gradually. In December 2025 – the latest available figure – the average price reached €5.57, a figure pending final consolidation, representing a 39% increase over a year. It should be noted that the context for this increase is radically different from 2023/2024, a time marked by a shortage of long fibre supply. Conversely, the current period is characterised by a record level of supply, also accompanied by very high demand, with an estimate of 185,000 tonnes – currently being consolidated – of long fibres sold over the year 2025.

2026 Masters of FLAX FIBRE™ Harvest Outlook

The 2026 growing area is not yet known, as the sowing period for spring flax has not yet begun. Nonetheless, forecasts from national producer organisations, and significant figures from winter flax – between 55,000 and 60,000 hectares sown in late 2025 for the 2026 harvest, compared with 30,000 hectares the previous winter – point to a significant increase this year.

Our estimates converge around a total of 220,000 hectares for 2026, compared with 200,000 hectares in 2025. This would be the third consecutive year that the growing area record is broken. By way of comparison, in 2015, the growing area in Western Europe had not yet reached 100,000 hectares.

A more precise trend covering all growing areas will be published in the next quarterly communication in spring 2026.

**Masters of FLAX FIBRE™の長繊維生産は依然として
高水準を維持**

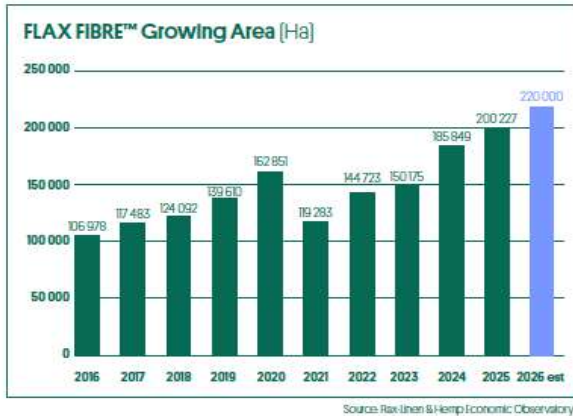
2025年12月19日付のアライアンスの「亜麻・リネンおよびヘンプ経済観測所」からの報告で指摘されているように、フランス、ベルギー、オランダのスカッチング工場は高い生産水準を維持している。これは、2024年および2025年の高収量が現在スカッチングラインで処理されていること、ならびに生産能力と市場対応力を強化することを目的とした西ヨーロッパにおける最近の産業投資——過去10年間で19基の新規スカッチングラインの導入と多数の旧式ラインの更新——によるものである。2025年9月から12月にかけての長繊維生産量は7万トンと推定された。これは、スカッチングが2023年の不作による収穫に一部依存していた2024年の同期間の5万トンと比較して増加している。2025年通年（生産量19万トン）は、過去最高を記録するとともに、2024年（11万6,000トン）からの大幅な回復を示すものとなる。前回の報告で発表した2026年上半期の見通しは変更ありません。月間生産量は高水準を維持し、2026年1月から3月にかけては2万トンに達するとはいえないまでも、その水準に迫る見込みです。2026年4月から6月にかけても、この高いペースは継続し、西ヨーロッパの脱穀工場では月間1万7,000トンから1万9,000トンを生産する見込みです。

Masters of FLAX FIBRE™ 長繊維の価格：上昇傾向

2024年後半に急落し、1キログラムあたりの平均価格が2024年3月の9.00ユーロから2025年1月には3.33ユーロまで下落した後、Masters of FLAX FIBRE™の平均価格は徐々に上昇しています。入手可能な最新のデータである2025年12月時点では、平均価格は5.57ユーロに達しました（最終的な集計待ちですが）。これは前年比39%の上昇に相当します。なお、この価格上昇の背景は、長繊維の供給不足が顕著だった2023/2024年とは根本的に異なる点に留意する必要があります。対照的に、現在の時期は供給量が過去最高水準にあることが特徴であり、同時に需要も極めて高い状況にあります。2025年通年で販売された長繊維の量は、現在集計中ですが、推定18万5,000トンに達すると見込まれています。

2026年「Masters of FLAX FIBRE™」収穫見通し

春亜麻の播種期がまだ始まっていないため、2026年の作付面積は現時点では不明である。とはいえ、全国の生産者団体による予測や、冬亜麻の重要な数値——2026年収穫分として2025年後半に55,000～60,000ヘクタールが播種されたのに対し、前年の冬は30,000ヘクタールであった——は、今年大幅な増加を示唆している。当社の推計では、2026年の総作付面積は220,000ヘクタール前後となり、2025年の200,000ヘクタールから増加すると見込まれる。これにより、作付面積の記録更新は3年連続となる見込みだ。比較として、2015年の西ヨーロッパの作付面積は、まだ10万ヘクタールに達していなかった。すべての作付地域を網羅したより詳細な傾向については、2026年春に発行される次回の四半期報告書で公表される予定である。



「FLAX FIBRE™ (亜麻繊維) の栽培面積 (ヘクタール)」の推移

- 横軸：年 (2016年～2026年予測)
- 縦軸：栽培面積 (ヘクタール)
- 棒の高さ：その年の栽培面積の大きさ

出典：Alliance for European Flax-Linen & Hemp (欧州フラックス・リネン・ヘンプ連盟) Economic Observatory (経済観測部門)

左上・・・世界の長繊維 3/4 は、フランス、ベルギー、オランダで生産されている ※長繊維＝繊維産業で使用される短繊維を除く
 中央左・・・ヨーロッパは亜麻繊維の世界第1位の生産地域
 中段左・・・2014年～2024年で亜麻の栽培面積は+128%増加
 下段左・・・2024年、ヨーロッパの亜麻栽培面積は185,000ヘクタール (うちフランスは87%：162,000ヘクタール)

Key figures in Flax-Linen fibre production 亜麻・リネン繊維生産の主要指標

<p>3/4 of the world's long* fibre are produced in France, Belgium and the Netherlands*</p> <p>Europe, the #1 global producer of Flax fibre</p>	<p>Today, Flax fibres* account for < 0.5% of global textile fibre production</p> <p>*long fibres - virgin fibres</p>
<p>+128% increase in Flax growing area from 2014 - 2024</p>	<p>3 main Flax-producing regions in France: Normandie, Hauts-de-France, Ile-de-France</p>
<p>185,000 hectares in Europe of Flax in 2024 [incl. 87% in France: 162,000 hectares]</p>	<p>1 hectare of European Flax =</p> <ul style="list-style-type: none"> 900 kg of yarns 3,750 m² of fabrics 4,000 shirts 450 sets of bed linens 1,375 chairs made of composite Flax
<p>116,000 tonnes of long fibres in 2024 [incl. 100,000 tonnes in France]</p>	

Source: IZC Research, Observatory of the Alliance for European Flax-Linen & Hemp, ITC, Chemtext

右上・・・現在、亜麻繊維は世界の繊維生産の0.5%未満を占めている
 中央右・・・フランスにおける主要な亜麻生産地域 (3地域)
 ・ノルマンディー
 ・オー＝ド＝フランス
 ・イル＝ド＝フランス
 下段中央・・・2024年の長繊維生産量は116,000トン (うちフランスは100,000トン)
 右下・・・ヨーロッパ産亜麻1ヘクタールあたり：
 ●糸 900kg
 ●または生地 3,750 m²
 ●またはシャツ 4,000枚
 ●または ベッドリネン 450セット
 ●または 複合フラックス (亜麻) 製の椅子 1,375脚
 ※「composite Flax」は、亜麻繊維を使った複合素材 (強化素材) という意味

About Alliance

The Alliance for European Flax-Linen & Hemp (formerly known as CELC, an association founded in 1951) is the only European agro-industrial organization that serves as a global reference and brings together all players in the European Flax-Linen and Hemp value chain.

A platform for reflection, current analysis, collaboration and strategic orientation, the Alliance for European Flax-Linen & Hemp supports an industry of excellence in a globalised context. It encourages dialogue with national and European public authorities.

It promotes an environment favourable to increasing business competitiveness through its three-fold mission of informing members, brands, and consumers, supporting the European ecosystem and European expertise, and promoting European Flax-Linen and Hemp as the preferred sustainable premium fibres worldwide.

It connects 10,000 businesses in 16 European countries and bases its work on the values of solidarity, innovation, scientific validation, and respect for people and planet.

It promotes, initiates, and organizes strategic reflection and research on its fibres in order to provide all of its interlocutors with evidence-based environmental data and reliable scientific evidence.

The Alliance for European Flax-Linen & Hemp strives to increase the international visibility of its fibres, whose technical and environmental properties inspire global design and open up new opportunities for industrial innovation. It guarantees the traceability of Flax fibre thanks to the Masters of FLAX FIBRE™ (ex-European Flax™) and Masters of Linen™ certifications.

協力関係 欧州亜麻・リネン・ヘンプ同盟 (旧称 CELC、1951年設立の協会) は、世界的な基準となる唯一の欧州農業産業団体であり、欧州の亜麻・リネン・ヘンプのバリューチェーンに関わるすべての関係者を結集しています。考察、現状分析、協力、戦略的方向性を提供するプラットフォームとして、欧州亜麻・リネン・ヘンプ連盟は、グローバル化した環境において卓越した産業を支えています。また、各国および欧州の公的機関との対話を促進しています。同アライアンスは、会員、ブランド、消費者への情報提供、欧州のエコシステムと専門知識の支援、そして欧州産亜麻・リネンおよびヘンプを世界中で選ばれる持続可能なプレミアム繊維として推進するという三つの使命を通じて、企業の競争力向上に寄与する環境づくりを促進しています。欧州16カ国の1万社以上の企業を結びつけ、連帯、革新、科学的検証、そして人と地球への敬意という価値観に基づいて活動しています。同団体は、すべての関係者にエビデンスに基づいた環境データと信頼性の高い科学的根拠を提供するため、繊維に関する戦略的な考察や研究を推進、発案、組織化しています。欧州亜麻・リネン・ヘンプ同盟 (Alliance for European Flax-Linen & Hemp) は、その繊維の国際的な認知度向上に努めています。これらの繊維の技術的・環境的特性は、世界的なデザインにインスピレーションを与え、産業革新の新たな機会を切り開いています。同団体は、「Masters of FLAX FIBRE™」 (旧 EuropeanFlax™) および「Masters of Linen™」認証を通じて、亜麻繊維のトレーサビリティを保証しています。

海外情報（ミラノウニカ展示会）報告

大長 山口 直之（文責）
麻絲商会 福坂 淳史
澤染工 澤 浩一郎



山口 直之



福坂 淳史



澤 浩一郎

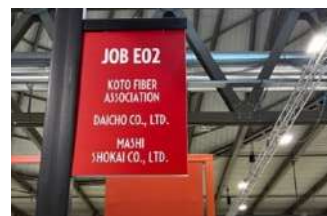
世界に広がる「近江のものづくり」

2026年1月、イタリア・ミラノで開催された「ミラノウニカ」に湖東繊維工業協同組合として出展しました。本展示会は世界中の高級ブランドやデザイナーが素材を求めて集まる欧州有数の場で、今年も欧州を中心に米国・アジアから多くの来場者で賑わいました。特に、具体的なものづくりを前提とした来場者が多く、「実際のビジネスにつながる場」としての存在感が一層高まっていると感じました。

湖東繊維工業協同組合ブースにはラグジュアリーブランドやデザイナー、エージェントが訪れ、「近江産地」の背景や技術、思想に強い関心が寄せられました。「どこで、どのように作られているのか」「なぜこの風合いになるのか」といった問いを通じ、技術や歴史そのものが価値として受け止められていることを実感しました。

特に評価が高かったのは、ヴィンテージ感のある染色や表情豊かな仕上げ加工の素材です。単なる生地ではなく、完成度の高い“テキスタイル”としてデザイナーの発想を刺激し、「そのまま使いたい」との声も多く聞かれました。加工方法に踏み込んだ質問も増え、技術自体がブランド価値として認識され始めています。

今回の出展を通じ、湖東繊維工業協同組合のものづくりが世界市場と確実につながりつつあることを改めて実感しました。高品質、小ロット対応、背景を重視する姿勢は国際市場のニーズと合致しています。今後はストーリーの発信と提案力の強化により、信頼関係の深化と継続的な取引へつなげていきたいと考えています。



世界の麻文化紹介

有限会社シービープランニング
取締役 大塚 あや子



リネンと刺繍に魅せられて ～白い呼吸、千年の記憶～

手元にある一枚のリネンに針を通すとき、ふと、この白い布が辿ってきた果てしない時間に思いを馳せることがあります。

刺繍の歴史は、リネンという植物の文化と分かちがたく結ばれています。なかでも私がかんがわれてやまない「白糸刺繍」は、ヨーロッパの厳しい風土が育んだ、いわば「白の美学」の極致。単なる装飾であることを超え、かつては欧州が生んだ最大の至宝とまで称えられた、静謐な芸術です。

なぜ、これほどまでに白糸刺繍に惹かれるのか。それはおそらく、この手仕事が「生きている」からかもしれません。家庭で愛用されるリネン布に、同じリネンの糸で刺繍を施す。同じ植物から生まれた二つは、洗濯を繰り返しても同じ速さで呼吸し、同じ分量だけ縮んでいきます。だからこそ、その絆は驚くほど強く、何十年という月日を耐え抜く。親から子へ、手作りの温もりをそのまま手渡していける……そんな「受け継がれる豊かさ」が、そこには宿っています。かつて、この美しいリネンの手仕事を日本やアジアの皆さまに届けたい一心で、最初の一冊を出版しました。今、多くの方の暮らしの中にその美しさが静かに根付いている景色を見られることは、私にとって何よりの喜びです。

時を遡れば、フランス・バイユーの街にある一枚の布が、私に大切なことを教えてくれました。1066年、王位継承の争いを描いた通称「バイユーのタペストリー」。



"Flax-Linen Fibre of Civilisation(S)" Edited By Alain Comillieri p.122
ACTES SUD/ALLIANCE FOR EUROPEAN FLAX-LINEN&HEMP

それはタペストリーと呼ばれながらも、実際にはリネンの地をウール糸が駆ける、壮大な刺繍の叙事詩です。千年の時を超えて現存するその布には、当時の人々の暮らしや息遣いが、今も鮮明に刻まれています。現在はフランスの国宝となり、内外不出の宝として守られているその姿は、手仕事を持つ「記録」としての強さを物語っているようです。19世紀、かのウィリアム・モリスもまた、このバイユーの地で心を震わせた一人でした。リネンという素材に深い愛着を持っていた彼は、中世の手法を現代に蘇らせようと情熱を注ぎ、機械では決して届かない「手の加減」が生み出す美しさを、心から称賛しました。モリスが愛したその精神は、時代を超えて今の私の針先にも、静かに流れ込んでいるような気がしてなりません。

刺繍は、ひと針、またひと針と、自分自身の時間を布に積み上げていく作業です。けれど、その相棒となるリネン布は、決して裏切りません。長い年月を経て、命を吹き込まれた刺繍は、一生を共に歩み続ける、かけがえのない存在となるでしょう。

大塚 あや子 Profile

刺しゅう作家 1950年福岡県生まれ。刺しゅう家である母のもと、幼少期より針仕事に親しむ。

2005年、刺しゅう教室「Embroidery Studio ECRU」を開講。スタンワークやシュヴァルム刺しゅうを日本に紹介した第一人者として知られる。伝統技法に現代の感性を吹き込んだデザインは、世代を超えて高い支持を得ている。

2010年、ニューヨークでの個展開催に合わせメトロポリタン美術館にて講演。

2012年には東京国際フォーラムで国内初個展を開催。著書・監修本は20冊を超え、仏語、ノルウェー語、ロシア語、英語、中国語、韓国語他、多国語で翻訳出版されている



【追悼】リネンに捧げた情熱の生涯 — 赤井彌一郎氏を偲んで

日本麻紡績協会の理事として長年に亘り、当協会の発展並びに麻業界の地位向上に尽くされました赤井彌一郎様のご逝去を、謹んでお悔やみ申し上げます。

株式会社 AKAI 代表取締役社長 赤井彌一郎儀 2025年12月16日午後3時、84歳にて永眠いたしました。故人は同社の三代目として、長年にわたり日本のリネン産業の振興にその身を捧げてまいりました。ここに、生前のご厚誼を深く感謝いたしますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

■ 株式会社 AKAI の歩みと伝統

株式会社 AKAI は、1912年(明治45年)に創業者の赤井峰太郎氏によって「赤井峰太郎商店」として設立されました。1921年には、日本初のリネン専門本格工場である「京都麻織物」を京都市山科で操業を開始し、国内リネン文化の礎を築きました。110年以上にわたり、麻専門メーカーとして価値の高い商品を提供し続けています。

■ 欧州仕入れ先開拓への奮闘 — 日本リネン界の転換点

創業三代目にあたる赤井彌一郎氏の足跡の中で、最も特筆すべきは欧州における仕入れルートの開拓です。1965年、日本国内のリネン紡績が相次いで操業を停止するという危機に直面した際、二代目・寛太郎氏の命を受け、彌一郎氏は単身欧州へと渡りました。

当時の欧州は、言葉の壁や商習慣の違いがあり、日本の企業が直接取引を取り付けるのは極めて困難な時代でした。しかし、彌一郎氏は「本場のリネン文化を日本に届ける」という強い信念のもと、粘り強く実地調査と交渉を重ねました。苦難の末、多くの優秀な原料仕入れ先を開拓することに成功します。この奮闘こそが、欧州のリネン文化を本格的に日本へ紹介する重要な契機となり、AKAIの中興の祖として今日の同社の確固たる基盤だけでなく、日本と欧州のリネンビジネスとの懸け橋を築いたのです。

■ 国際交流とリネンへの深い愛

彌一郎氏は、1981年から欧州リネン会議(現在はAlliance for European Flax-Linen & Hempに再編)にアジアで唯一の企業として継続的に参加し、日本と世界を結ぶ架け橋として尽力しました。氏は生前、「リネンは使えば使うほど愛おしくなる不思議な繊維である」と語り、その風合いや使い心地を多くの人々と共有することを何よりの喜びとしていました。21世紀の高度な技術社会においても、植物由来の伝統的な繊維が持つ価値を信じ抜き、その普及に情熱を注ぎ続けた生涯でした。

■ 遺志を継いで

葬儀は故人と遺族の意向により、近親者のみの家族葬として執り行われました。

「日本と海外を結び、リネンを愛し続けた情熱的な生涯」を閉じた彌一郎氏の遺志を継ぎ、株式会社 AKAI の社員一同は、麻産業のさらなる発展に向けて邁進する決意を新たにしています。リネンを愛し、リネンに愛された稀代の経営者：赤井彌一郎に、お心を寄せていただき、深く感謝申し上げます。



株式会社 AKAI 社員一同

日本麻紡績協会の現況

日本麻紡績協会の年間活動報告

令和8年5月

(1) 現況

日本麻紡績協会の設立は1952年5月1日、本年で74年目を迎えることになりました。現在会員社数は新たに4社が加わり110社となり、紡績、商社、各生産会社（撚糸、織、編、染色・加工、縫製）や企画、小売に至るまで、麻に関する全ての業種に会員が拡大しております。引き続き、会員各社が情報交換を重ねながら消費者への麻の浸透に努めてまいります。

(2) 麻を取り巻く環境

原材料の輸入については、引き続き原料価格高騰、為替においても長期円安基調の下、繊維業界は厳しい経営環境が継続しております。麻業界においても、特にリネン糸の価格は依然高値圏で推移しており、原料価格の安定が今後とも不透明な中、麻100%の純糸や織物から他繊維との混紡や交織へと、多用化されております。一方、各種加工場（紡績、撚り、織、編、染色、仕上げ、縫製、修正）においては、人員確保、コストアップの転嫁など多くの課題をかかえ、各社対応に苦慮している状況です。麻素材は近年猛暑の影響もあり、引き続き「サステイナブル」「SDGs」の注目素材であり、オールシーズン扱いの素材としても期待されており、今後も当協会をあげて取り組んでいきます。日本における麻素材を中心とした唯一の団体ASABO（日本麻紡績協会）の役割・存在感が益々高くなってきており、協会会員間のビジネスも取引から取り組みへと進化しつつあります。

(3) 活動報告

国内では東京テキスタイルスコープ(TTS)、ジャパン・ヤーンフェア等への参加はもとより、イタリア・ミラノ「ミラノ・ユニカ展」、フランス・パリ「プルミエール・ヴィジョン」及び中国上海「インターテキスタイル上海」の各展示会へ日本麻紡績協会の会員が出席しました。昨年11月12～14日には、スペイン・マラガにて欧州麻連盟主催のリネン・ヘンプ国際フォーラムが5年ぶりに開催されました。今回は国連UNCTAD（国連貿易開発会議）から、繊維全体の中での植物繊維（vegetable fibre）、リネン（Flax）及びヘンプ（Hemp）の数量的位置付けや喫緊の課題である関税（tariff）問題への報告があり、加えて欧州麻連盟からは、近年注目されているゲノム解析による改質麻繊維や生産拡大への重要な中間報告がなされました。当協会からも、会員9社13名が出席しました。香山専務理事が、各国7名によるパネル・ディスカッション（Round Table Talking）に参加し、日本麻市場の展望、麻の国際的底上げへの協創価値（CSV）戦略等を説明しました。また、グローバルな麻の普及に貢献したとして、香山専務理事、中国麻紡績行業協会の董春興会長、デザイナーのアレクサンドラ・ヴァン・ハウテ氏に顕彰メダルが授与されました。

(4) 国内定例行事等

- ・令和8年1月14日 年賀交歓会（来場者69社148名、来賓5名）
- ・令和8年5月13日 理事会・総会・懇親会
- ・令和9年1月13日 年賀交歓会予定

日本麻紡績協会 110社 (108社、1協同組合、1協会、50音順)

ア	1 青葉株式会社	38 サイボー株式会社	75 豊田株式会社
	2 株式会社AKAI	39 澤染工有限会社	ナ
	3 株式会社アクシス	40 三共修整有限会社	76 中伝毛織株式会社
	4 浅記株式会社	41 株式会社三幸	77 中村株式会社
	5 朝日加工株式会社	42 株式会社三幸ソーイング	78 有限会社ナカモリ
	6 旭紡績株式会社	43 株式会社三和リネン	79 ニイガタテキスタイル株式会社
	7 アトモスフェール・ジャポン株式会社	44 有限会社シービープランニング	80 西本株式会社
	8 有限会社亜麻公社	45 滋賀麻工業株式会社	81 西山繊維株式会社
	9 株式会社アマックスコーポレーション	46 信友株式会社	82 日新実業株式会社
	10 株式会社ANTS JAPAN	47 株式会社ジャスカ	83 ニット技研
	11 アンダー株式会社	48 株式会社成願	ハ
	12 今村株式会社	49 聖天株式会社	84 ハイランド株式会社
	13 岩田工房	50 新成物産株式会社	85 服部テキスタイル株式会社
	14 栄光染色株式会社	51 新陽株式会社	86 平岡織染株式会社
	15 越前屋多崎株式会社	52 鈴木晒整理株式会社	87 株式会社廣瀬商会
	16 エップヤーン有限会社	53 装研株式会社	88 廣瀬又一株式会社
	17 株式会社エヌ・ビー・アール	54 株式会社装備開発機構	89 藤居織物工場
	18 近江織物株式会社	55 総合再開発管理株式会社	90 船山株式会社
	19 株式会社大志茂	タ	91 ブルーミング中西株式会社
	20 大森撚糸株式会社	56 株式会社ダイイチ	92 株式会社穂高商事
	21 小千谷織物同業協同組合	57 大恒株式会社	93 ボーザールインターナショナルオフィス
カ	22 有限会社金丸整理工業	58 株式会社大長	マ
	23 甲株式会社	59 株式会社タグチ	94 株式会社麻絲商会
	24 有限会社川登	60 株式会社武田商店	95 丸佐株式会社
	25 株式会社カンセン	61 株式会社タケクロス	96 丸進工業株式会社
	26 株式会社関東小池	62 辰野株式会社	97 株式会社丸萬
	27 菊高産業株式会社	63 田村駒株式会社	98 三重ユニフォーム株式会社
	28 岐セン株式会社	64 帝国繊維株式会社	99 株式会社三崎
	29 一般社団法人岐阜県蚕糸協会	65 有限会社テキスタイルベガ	100 ミマス株式会社
	30 株式会社キョウワソーイング	66 株式会社テザック	101 未来テクノ株式会社
	31 株式会社金原	67 東興産業株式会社	102 株式会社武蔵富装
	32 グロリア株式会社	68 東洋繊維株式会社	103 株式会社むつ縫製
	33 KBツツキ株式会社	69 東洋物産株式会社	104 森菊株式会社
	34 株式会社ケンランド	70 東和株式会社	105 森保染色株式会社
	35 興和株式会社	71 株式会社トーホーユニ	ヤ
	36 有限会社小啓修整織物	72 トスコ株式会社	106 山甚物産株式会社
サ	37 株式会社サイダ	73 殿岡服飾工業株式会社	107 ユウワ商工株式会社
		74 豊川テキスタイル株式会社	108 株式会社ユニウェル
			ラ
			109 有限会社リネット
			110 リネンハウス株式会社



北フランスノルマンディのリネン畑 Photo by Mr. Patrick Sagnes ©2026 Alliance for European Flax-Linen & Hemp

日本麻紡績協会



〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL : 03-3668-4641

FAX : 03-3668-4642

Email : jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <https://www.asabo.jp/>

令和8年5月13日発行

